

2009年12月1日

# 印旛普及だより

第17号

〒285-0026 佐倉市錦木仲田町 8-1 TEL:043-483-1130 FAX:043-485-9502  
ホームページアドレス <http://www.agri.pref.chiba.lg.jp/apcenter/inba/>  
発行：印旛農林振興センター振興普及部改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

## 栄町で「どらまめ」 オーナー引き渡し式開催

10月10日(土)、栄町の「ふれあいプラザさかえ」で町の特産品である黒大豆「どらまめ」のオーナー引き渡し式が開催されました。

栄町木塚地区では、水田転作物物として黒大豆を導入し、今年で12年目となります。

当センターでは、導入当初から黒大豆産地の安定的な定着と発展を目的に、栽培技術の高度化や品質向上、黒大豆加工品の開発等において、関係機関と連携し産地を支援してきました。

その結果、初年目は、2.2畝だった栽培面積が、現在8.8畝にまで拡大しました。導入当初からオーナー制を取り入れており、毎年10月上旬に収穫適期の黒大豆枝豆がオーナーに引き渡されます。

今年はや予測しにくい不安定な天候が続く、例年より生育は遅れ気味でしたが、生産者の細やかな管理と9月の好天により、大粒の莢を実らせることができました。

式典にはおよそ1500名のオーナーが集まり、茹でたて枝豆の試食や、生産者が作ったお米の抽選会が行われ、式典に招



かれた森田県知事は農業の大切さやオーナーに愛され続けている「どらまめ」の素晴らしさについて熱く語られました。



「食」や「農」の重要性が見直されている今、消費者が自らの手で収穫を行い、生産者と直接話をするオーナー制は、消費者と生産者の距離を近づけ、農業に対する理解を深める好機となっています。

平成21年の稲作を振り返って

10月30日発表の農林水産統計によると、千葉県の作況指数は99の見込みです。

◆印旛管内の生育経過について

①移植～分けつ期

育苗期間から天候に恵まれ、生育はやや旺盛となりました。

②分けつ期～幼穂形成期

5月下旬から6月上旬の日照不足により、草丈が高く、軟弱な生育で茎数はやや少なめになりました。

③出穂期以降

7月下旬から8月上旬が日照不足となり、「ふさおとめ」、「ふさこがね」の登熟期間と重なったことから、登熟はやや遅れ気味になりました。「コシヒカリ」については、8月中旬以降の日照が回復し、また気温が低めに推移し、稲体の消耗が抑えられたことから、その後の登熟は順調に進みました。

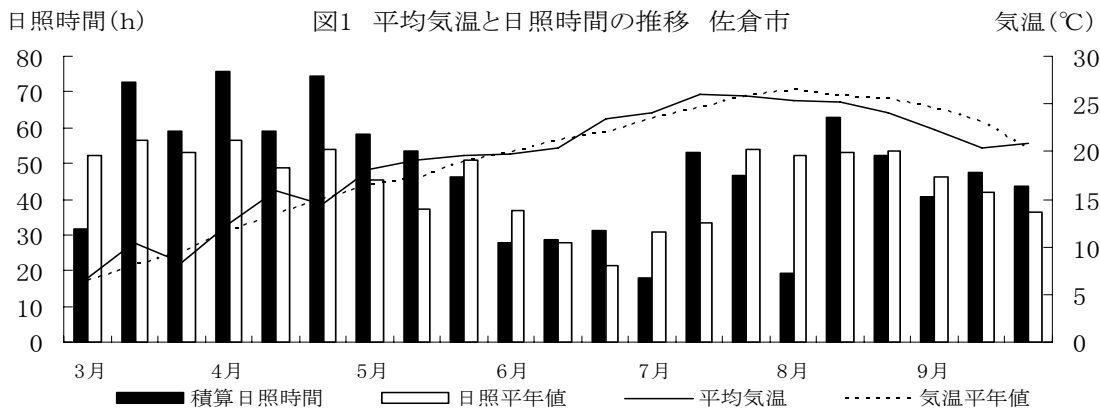


表1 印旛管内の定点収量構成要素調査結果

◆品種別の作柄について

品種	植付日	成熟期	m <sup>2</sup> 当り穂数 (本)	1穂籾数 (粒)	m <sup>2</sup> 当り籾数 (粒)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)
ふさおとめ (成田市)	5/1	8/19	396 (96)	63.1 (97)	24,988 (93)	85.3 (96)	22.7 (98)
ふさこがね (佐倉市)	5/4	8/27	399	82.3	32,838	89.4	22.5
ふさこがね (印旛村)	4/22	8/20	335	85.9	28,777	91.7	22.3
コシヒカリ (印西市)	4/29	8/30	324 (91)	80.5 (102)	26,082 (93)	90.7 (104)	21.6 (103)
コシヒカリ (佐倉市)	4/23	9/1	323 (108)	98.7 (110)	31,880 (119)	83 (95)	21.3 (99)

※ 下段、( )内の数字は平年比

◆来年に向けて

「ふさおとめ」、「ふさこがね」については、平年より減収となったほ場が多くみられました。その要因として、穂数が不足し、m<sup>2</sup>当り籾数が少なかったこと、日照不足で千粒重が大きくなかなかったことが考えられます。「コシヒカリ」についても穂数はやや少なめとなりましたが、不足分を一穂籾数で補いました。また、登熟歩合や千粒重は平年並みとなった結果、平年並みの収量となりました。

穂数の確保が重要な「ふさおとめ」、「ふさこがね」については、栽植密度の適正化や初期の水管理等により、茎数を確保することが収量の安定につながります。

基本技術を再確認し、今年の結果を分析することで、気象変動に強い米づくりを目指しましょう。

## 「今、見直そう！土づくり」

11月5日、富里市において  
印旛地域農林業振興普及協議会  
と印旛農林振興センターの共催  
により、「スイカ栽培の安定化に  
向けた土づくり研修会」を開催  
しました。

千葉県のスイカについては、  
全国第2位の生産量を誇ってい  
ますが、近年、ホモプシス根腐  
病などの土壤病害が発生し、栽  
培がむずかしくなっています。



そこで、生産の基本である「土  
づくり」について、「全国土の会」  
会長として健康な土をつくる活  
動をされている東京農業大学の  
後藤逸男教授から講演をしてい  
ただきました。

### 健康な土づくり

全国各地で野菜生産地の土壤  
診断調査を行うと様々な「土づ  
くり迷信」的な事例が見られま  
す。

- ① 酸性の強い畑で白菜をつくり、  
根こぶ病が出たと言って石灰  
ではなく殺菌剤だけをまく。  
② 可給態リン酸が過剰であつて  
も、黒ボク土の畑だからと言  
って熔リンを毎作多量に施用  
する。

③ 「甘いトマトをつくるには、  
リン酸をたくさん入れた方が  
良い。」

④ 「完熟堆肥を入れれば、入れ  
るほど土が良くなる。」と信じ  
ているなど

このような迷信を排除し、土  
壌学や肥料学的な根拠に基づく  
合理的な施肥設計により、土壤  
改良を行うことが必要です。

無駄な肥料や土壤改良資材を  
削減し、生産経費が減らせると  
ともに健康な土をつくることは、  
環境保全にも役立ちます。

今こそ、土づくりを見直すこ  
とが重要であるとの説明でした。

### ホモプシス菌に勝つための土 づくり

千葉県を含め全国のスイカ栽  
培土壤を分析すると土壤が酸性  
化している事例が多く見られま  
す。また、スイカのハウス栽培  
では、硝酸態窒素及びリン酸が  
多い傾向にあります。

硝酸態窒素により酸性化した  
土壤や、リン酸が過剰な土壤で  
は、ホモプシス根腐病などが多  
く発生する傾向にあります。

これらの対策として、東京農  
大で実施した転炉スラグを使用

した酸性改良による養分吸収量  
の変化及びハウスでの緑肥をす  
き混んだ太陽熱消毒の試験につ  
いて大島助手から説明をいただ  
きました。

① スイカの窒素吸収量は、交配  
以降多くなるため被覆尿素有  
利用が有効的である。

② 酸性改良により窒素の肥効が  
高まるため窒素の施用量を削  
減することができる。

③ リン酸吸収量は10a当たり  
5kg程度であり、過剰傾向の  
ほ場では、V字型の施肥設計  
への切り替えが必要である。

④ ハウス太陽熱消毒では、あら  
かじすき込んだ緑肥に残存肥  
料を吸収させ、次の定植まで  
土を動かさず、菌を復活させ  
ない。

このようにホモプシス根腐病  
の被害を軽減し、スイカ栽培の  
安定を目指すための土づくりと  
して、貴重なアドバイスを頂き  
ました。

## 新しく認証された農業士・指導 農業士のご紹介

農業士は、地域農業の推進者として活躍される青年農業者を、指導農業士は、地域農業のリーダーとして青年農業者育成に尽力される方を知事が認証するものです。

☆農業士

○大塚 公裕 氏（白井市）

梨＋水稻の複合経営で、米は米飯加工も含めて全量を直売。地域の農業後継者組織の会長を務めるなど、若手農業者のリーダーとして活躍されています。

○押田 知之 氏（白井市）

梨3haの大規模経営を行っており、技術レベルは高く、新技術や新品種の導入にも積極的。今後、白井の梨産地を担う農業者として期待されています。

☆指導農業士

○芹田 恵子 氏（白井市）

露地畑で野菜や果樹を百種類以上栽培し、全量を駅での直売や

レストランとの直接取引で販売。地域を代表する女性農業者として活躍されています。

## 林農園(佐倉市)さん農林水産大 臣賞受賞

第14回環境保全型農業推進コンクールの有機農業の分野で佐倉市坂戸の林重孝氏が農林水産大臣賞を受賞されました。



林氏は、国内でも早い時期から有機農業に取り組み、技術の開発と安定生産を確立されました。

## 平成22年度千葉県農業大学校 の学生募集（一般入試）

農業のスペシャリストを目指す、千葉県立の農業大学校の学生を募集します。

## 募集人員

A日程 農学科約30名  
研究科約10名

B日程 農学科約10名  
研究科若干名

## 受験資格

農学科 高等学校を卒業した者  
又は22年3月卒業見込みの者

研究科 都道府県の農業大学校の農学科等を卒業した者又は22年3月に卒業見込みの者等

## 選考期日

A日程 平成22年1月12日(火)  
B日程 平成22年3月2日(火)

## 選考場所

## 選考方法

農学科 国語、農業科学基礎・

生物I・化学Iから1

科目、面接

研究科 作物学・園芸学・畜産

学・農業経営学から2

科目、面接

## 願書受付

A日程 平成21年12月21  
日(月)～平成22年  
1月5日(火)

B日程 平成22年2月12日

(金)～平成22年2月  
23日(火)

(土、日曜日、祝祭日及び平成  
21年12月29日～平成22  
年1月3日を除く)

## 合格発表

A日程 平成22年1月21日  
(木)

B日程 平成22年3月10日  
(水)

## 申込・問合せ

千葉県農業大学校  
〒283-0001

千葉県東金市家之子1059

TEL0475(52)5121

FAX0475(54)0630